

平成24年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	プール運営事業			基本目標	予防医療体制の整備		
担当課(局)・係	健康福祉課	健康推進係	記入者	上杉悦子	評価者	河野 辰己	開始年度 H16 年度

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を)	町民						
	意図・目的	プール利用により心身の健康づくりに役立てるとともに、1年間を通じて集客体制を整え収益増を目指す						
事業の内容	プール利用を呼びかけ、引き続き大人・子どもの水泳教室等の各種教室を開催する。水中運動普及員への研修会を実施する。委託先や普及員と連携を図り新規の利用者を増やし、継続利用へとつなげる。							
23年度決算額		26,535 千円	24年度予算額		27,120 千円	事業従事者数	H23 0.10 人 H24 0.13 人	
主な支出項目	需用費	9,062 千円	財源内訳	国庫支出金	0 千円	23年度人件費	724 千円	
	役務費	407 千円		県支出金	千円	24年度人件費	893 千円	
	委託料	16,882 千円		地方債	千円	24年度予算額における一般財源の割合(H24)		100.0 %
	使用料及び賃借料	7 千円		一般財源	27,120 千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください		
	備品	134 千円			千円			
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助			補助事業名		-		
	補助交付団体			補助金要綱		-		
	23年度	補助額	- 千円	補助の形態	-	H24年度補助額	- 千円	終期 - 年度
		団体の決算額	- 千円	H23年度までの見直しの状況・評価委員会での決定事項等				
		補助の割合	- %					
繰越額		- 千円						

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 利用者数	委託先及び水中運動普及員と連携しプールのPRを行い、利用者が増加する。
	2 プール利用料	利用が増えることで、利用料の増収につながる。
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 無料開放プールイベント	プール(2教室)、フロアー(1教室)での教室を開催。パンフレット(プールの効果)や反射材を配布
	2 水中運動普及員研修	水中運動普及員への研修会を開催。
	3	

◎達成状況

指標名	単位	22年度	23年度	24年度	
		目標値			
成果指標	利用者数	人	25,000	25,000	30,000
		実績値	23,208	28,560	
		達成率	92.8%	114.2%	
プール利用料	円	目標値	6,219,000	6,724,000	6,958,000
		実績値	5,721,100	7,048,300	
		達成率	92.0%	104.8%	
活動指標	無料開放プールイベント	目標値	1	1	1
		実績値	1	1	
		達成率	100.0%	100.0%	
水中運動普及員研修	回	目標値	8	7	7
		実績値	7	7	
		達成率	87.5%	100.0%	
		目標値			
		実績値			
		達成率			

事務事業名	プール運営事業	担当課(局)	健康福祉課
-------	---------	--------	-------

◎事務事業の評価

	担当者記入欄	評価する項目	点数 自己 評価
妥当性 (必要性)	医療保険者による特定健診・保健指導が導入され、生活習慣病に対する積極的な予防が必要とされるなか、疾病別教室(国保事業)や特定保健指導の教室にも利用しており、町が直接評価していくことができる。 町内に住民が利用できるプールが本施設のみであり、事業を廃止するとプール利用ができなくなり、利用者に影響が出る。	◎目的からして町が行うべきか	2
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	2
		◎事業廃止による影響があるのか	2
有効性	プールを継続的に利用することによって、健康状態が改善されるとともに、アンケート(平成23年2月実施)より、仲間づくりの場となったり心の健康づくりにも役立っていることが推察される。	◎目標に対して成果は得られているか	2
		◎すでに目的は達成されていないか	1
効率性	委託先との打合せ、広報、教室の開催、水中運動普及員の活動等により、利用者の増加と楽しいプール利用になると考える。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	1
		◎費用対効果が十分に認められるか	1
協働性	水中運動普及員への研修を実施し活動していくことで、プールを知ってもらい(プールの広報・水中運動の普及等)継続的なプール利用へとつながる。	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	1
合計(最高18点)			14

※町補助をしている場合のみ記入

公益 平 性 性		◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること	-
		◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか	-
		◎町民の理解が得られる事業であるか	-
合計(最高4点)			-
その他			

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合 評 価	◎担当者の方針に対する 評価者としての所見 ◎統括者として、どのよう に事業を進めるべきと考 えているか、等	今後の方向性	今後の方向性			
			事業の 方向性	拡充	維持	縮小
	平成23年度のプール利用者は、水中運動普及員等のPR効果があり、過去最高の利用者があった。今後もこうしたPR活動等行うとともに、介護予防事業等の充実を図る必要がある。			○		
			廃止	縮小	維持	拡充
			コスト			

◎事務事業評価委員の意見等

<ul style="list-style-type: none"> 健康な街づくりの一つとして、充実した運営をお願いしたい。 利用者の増加が図られていることから、保険料軽減にも寄与していると推察されるが、効果を数字で示すことができないか検討を求める。 医療費の抑制、健康増進等の観点から事業継続は必要と考える。 	◎今後の方向性	
	事務事業評価委員会	
	判定	維持
	外部評価委員会	
	判定	答申書参照